

当科における、抗 ARS 抗体陽性の全身性強皮症の検討

研究分担者	山本俊幸	福島県立医科大学医学部皮膚科 教授
研究分担者	浅野善英	東京大学医学部附属病院皮膚科 准教授
研究分担者	石川 治	群馬大学大学院医学系研究科皮膚科学 教授
研究分担者	川口鎮司	東京女子医科大学リウマチ科 臨床教授
研究分担者	桑名正隆	日本医科大学大学院医学研究科アレルギー膠原病内科学分野 教授
研究分担者	後藤大輔	筑波大学医学医療系内科 准教授
研究分担者	神人正寿	和歌山県立医科大学医学部皮膚科学 教授
研究分担者	竹原和彦	金沢大学医薬保健研究域医学系皮膚分子病態学 教授
研究分担者	長谷川稔	福井大学医学部感覚運動医学講座皮膚科学 教授
研究分担者	波多野将	東京大学大学院医学系研究科重症心不全治療開発講座 特任准教授
研究分担者	藤本 学	大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学皮膚科学 教授
研究分担者	牧野貴充	熊本大学病院皮膚科・形成再建科 講師
協力者	佐藤伸一	東京大学医学部附属病院皮膚科 教授
研究代表者	尹 浩信	熊本大学大学院生命科学研究部皮膚病態治療再建学講座 教授

研究要旨

全身性強皮症と多発性筋炎/皮膚筋炎は合併することがあるが、本研究では多発性筋炎/皮膚筋炎の特異的自己抗体である抗 ARS 抗体陽性の全身性強皮症の患者の検討を行った。全身性強皮症患者 195 例のうち 6 例(2.6%)で抗 ARS 抗体が陽性であり、臨床所見や検査所見についてまとめた。

A. 研究目的

多発性筋炎/皮膚筋炎の特異的自己抗体である抗 ARS 抗体陽性の全身性強皮症の特徴を明らかにする。

B. 研究方法

2007 年から 2018 年までの 12 年間に当科で全身性強皮症と診断された患者のうち、抗 ARS 抗体陽性の症例を抽出し臨床所見や検査所見の検討を行った。

C. 研究結果

全身性強皮症 195 例のうち抗 ARS 抗体陽性の症例は 6 例(2.6%)だった。全て女性、年齢は 19-68 歳(中央値 44 歳)、全て limited 型、レイノー 4 例、指趾潰瘍 0 例、筋炎 2 例、間質性肺炎 5 例、腎病変 0 例、消化管病変 0 例(不明 1 例)、心病変 0 例、肺高血圧症 0 例、甲状腺疾患(橋本病) 1 例(不明 2 例)だった。抗 ARS 抗体の内訳は J0-1 抗体 3 例、PL-7 抗

体 2 例、不明 1 例だった。抗 ARS 抗体以外の自己抗体はセントロメア抗体 1 例、Sc1-70 抗体 0 例、RNA-ポリメラーゼ III 抗体 0 例、SSA 抗体 4 例、SSB 抗体 1 例、U1-RNP 抗体 1 例でみられた。全身性強皮症以外の膠原病は多発性筋炎/皮膚筋炎 3 例、関節リウマチ 1 例、混合性結合組織病 1 例の合併がみられた。悪性腫瘍は 1 例で合併がみられ、胃癌と腎癌を合併していた。

同期間に抗 ARS 抗体陽性の多発性筋炎/皮膚筋炎と診断された 12 例のうち全身性強皮症を合併したのは 2 例(16.7%)だった。以上の結果を表 1 に示す。

D. 考 察

抗 ARS 抗体陽性の全身性強皮症は女性で limited 型が多く、間質性肺炎の合併も多い可能性があった。SSA 抗体陽性だが、シェーグレン症候群の合併例はみられなかった。

E. 結 論

全身性強皮症単独で抗 ARS 抗体陽性を呈した症例はみられなかった。

G. 研究発表

- | | |
|---------|----|
| 1. 論文発表 | なし |
| 2. 学会発表 | なし |

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

- | | |
|-----------|----|
| 1. 特許取得 | なし |
| 2. 実用新案登録 | なし |
| 3. その他 | なし |

表 1 発症の契機

表 1 抗ARS抗体陽性のSSc症例

症例	年齢	性別	病型	SSc特異的 自己抗体	抗ARS抗体 詳細	間質性肺炎	悪性腫瘍
1	58	F	limited	-	不明	-	-
2	32	F	limited	centromere	PL-7	+	-
3	55	F	limited	-	Jo-1	+	-
4	33	F	limited	-	PL-7	+	-
5	68	F	limited	-	Jo-1	+	胃癌、腎癌
6	19	F	limited	-	Jo-1	+	-